令和8年度環境保全計画書

株式会社ホテルオークラ神戸

① 重点的取り組み目標・計画

＊省エネルギーの推進
・燃料、電力、用水の使用量を97年度対比で約20%削減を目標とします。
・燃料、電力、用水の使用量を2025年度対比で約1%削減を目標とします。

② 公害防止対策に係わる計画（ボイラー排出ガス）

ア 公害防止対策の目標及び目標値

分野		目標
大気汚染防止対策		◆「大気汚染防止法」、「大気汚染防止法第4条第1項の排出基準に関する条例（兵庫県条例）」及び「環境の保全と創造に関する条例（兵庫県条例）を遵守する。 ◆別表に記載するばい煙発生施設からの排出規制に係わる目標値を遵守する。

別表1 ばい煙発生施設からの排出規制にかかわる目標値

施設名	最大許容濃度目標値		備考
	窒素酸化物（ppm）	ばいじん（g／m³N）	
第1ボイラー	57未満	0.003未満	
第2ボイラー	52未満	0.003未満	

イ 目標達成のために講ずる措置・対策

目標項目	目標達成のために講ずる措置
ばい煙の排出規制の遵守	◆排ガス発生施設の適切な維持管理に努めると共に「ばい煙濃度測定計画」により目標値の遵守状況を確認し、その測定結果を「環境保全報告書」に記載する。

ウ 公害防止対策に係わる調査・測定計画

	測定項目	測定頻度	測定個所	測定方法	備考
1	窒素酸化物の濃度	2回／年	第1、第2ボイラー	JIS K 0104 7.3 ｲｵﾝｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ法	
2	ばいじんの濃度	2回／年		JIS Z 8808	

③ 環境保全に係る計画

(1)環境保全活動目標(目標年次2026年)

	分野	項目		目標
1	事務所等での節電・節水	節電		徹底
		節水		徹底
2	事務所等での廃棄物の適正処理・減量	空缶、空瓶、紙類等の分別回収		徹底
		コピー用紙の使用削減		2025年比較1%減
		ミスコピー用紙の再利用		徹底
		廃棄物発生量		2025年比較1%減
3	事務所等での再生製品等の使用	ｸﾞﾘｰﾝ購入の実施		100%
		バージンパルプの使用量の抑制		再生紙利用
		プリントートナーカートリッジの再生利用		10%
		充電池等の利用		10%
4	環境負荷の少ない資源、材料燃料の選択	良質燃料への転換		随時
		廃棄の際の環境影響を配慮した材料の選択	処分可能の塩素化合物の削減	全品随時切替
			梱包用発砲スチロールの削減	全品随時切替
			分解工程の効率化	10%向上
		プラスチック製品の入替		随時
5	自動車対策	マイカー通勤の抑制		随時
		社用車の削減		随時
		積載量の適正化		全車両
		低公害・省エネルギーな自動車への転換		買い替え時転換
6	特定フロン等使用量の抑制	代替フロンへの転換		全量
		設備更新時に特定フロン非使用を導入		全量
		特定フロン使用機器の適性廃棄		フロン回収の徹底
7	環境に配慮した施設設備	緑地の整備		600㎡
		ビオトープの整備		随時実施
		公害の抑制		夜間照明の抑制
8	従業員教育	環境保全に関する社員研修		都度
		会議・社内報での啓発		随時
9	地域社会への参加	事業場周辺の清掃活動		月一回実施
		地域の環境保全活動への社員派遣		のべ25人程度

(2)2026年度環境保全計画(活動項目)

	分野	活動項目	細目	目標
1	事務所等での節電・節水	節電	休み時間等に消灯	徹底 PCモニター電源のoffを徹底
			冷暖房の適正化	夏季28℃ 冬季21℃
			省電力電灯への切替	交換時順次LED切替
		節水	節水の指導	徹底
			節水器具の採用	各調理場に取り入れる
2	事務所等での廃棄物の適正処理・減量	空缶、空瓶、紙類等の分別回収	ゴミ処理場にて分別	徹底
		コピー用紙の使用削減	両面コピーの徹底	両面コピーの比率80%以上
		ミスコピー用紙の再利用	――――	徹底
		廃棄物発生量	納入業者への梱包削減依頼	全納入業者に依頼
3	事務所等での再生製品等の使用	ｸﾞﾘｰﾝ購入の実施	文房具	100%
			機械器具・備品	新機購入時切替
			サービス	可能な限り
		プリントートナーカートリッジの再生利用	――――	指導徹底
		充電池等の利用	――――	指導徹底
4	環境負荷の少ない資源、材料燃料の選択	良質燃料への転換	随時	随時変更
		廃棄の際の環境影響を配慮した材料の選択	処分可能の塩素化合物の削減	全廃
			梱包用発砲スチロールの削減	20%
			分解工程の効率化	10%向上
		プラスチック製品の入	プラ製品を再生可能資源等を使用した物へ変更	随時入替
5	自動車対策	マイカー通勤の抑制	――――	大規模宴会時の使用禁止
		過積載の抑制	啓発ｽﾃｯｶｰの配布	全車両及び搬入車両
		低公害・省エネルギーな自動車への転換	――――	車両買替時
6	特定フロン等使用量の抑制	代替フロンへの転換	――――	メンテナンス時随時
		設備更新時に特定フロン非使用を導入	――――	新規導入時
7	環境に配慮した施設設備	緑地の整備		都度整備
		ビオトープの整備	正面池、日本庭園池	鯉、金魚の放流
		光害の抑制	夜間照明の減量化	徹底
8	従業員教育	社員研修	――――	新入社員指導
		会議等での啓発	――――	随時
9	地域社会への参加	事業場周辺の清掃活動	――――	月1回実施
		地域の環境保全活動への社員派遣	周辺の清掃作業	のべ25人程度